

# \*\*\* 今日の健康(5月)\*\*\*

## < スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)その2 >

### <アレルギー免疫療法とは>

スギ花粉症は、スギ花粉がアレルギー(または抗原)と呼ばれる原因物質となって引き起こされます。アレルギー免疫療法とはアレルギーの投与をくり返し行うことにより、根本的な体質改善を期待する方法です。その患者さんでアレルギーの原因となっているアレルギーのエキス(製剤)をごく少量から投与開始し、少しずつ量を増やしていき、アレルギーが起きないように体を慣らしていく方法です。

### <治療>

- ① 舌下免疫療法薬剤の対象年齢は日本では12才以上です。
- ② 治療開始は花粉の飛散していない時期から開始し、花粉の非飛散時期も含め年単位で確実に投与する治療法です。  
花粉飛散2か月以上前の11月以前からの治療開始が推奨されています。お薬に自然からの花粉が加わることで、副反応が出現しやすくなるからです。
- ③ 最初に血液検査等で、その患者さんのアレルギーの原因であるアレルギー(抗原)を確かめます。
- ④ 舌下アレルギーエキスの服用の第1日目はクリニック内で舌下してもらい、その後30分は副反応の出現の有無など見るために院内に居てもらいます。
- ⑤ 薄いアレルギーエキスを少量から投与し徐々に増やしていく増量期(1~2週目)と一定量での維持期(3週目以降)があります。(詳細は治療開始時に説明があります)
- ⑥ 舌下アレルギーエキスの服用は、舌下に2分間保持し、その後5分間はうがい、飲食を控えることを毎日継続します。少なくとも2年以上継続して行った方がよく、3~4年以上継続して舌下免疫療法を行うと、中止後も長期にわたり効果が持続します。(中断や再開等の説明は治療開始時に説明)
- ⑦ 通院は1ヶ月に1度(薬剤発売1年以内は14日毎)です。
- ⑧ 病院への通院が難しい場合や治療途中で転居の必要が生じた場合は、近くのアレルギー専門医療機関を紹介のうえ治療を続けることも可能です。



### <副反応>

- ① 舌下免疫療法では、皮下注射法に比べて副作用は少ないとされていますが、特有のものとして、口腔浮腫、口内炎症状、咽頭刺激感、口腔搔痒などの、アレルギー投与部位と関連した症状がみられます。投与を続けるうちに軽減、消失することが多く、治療の完遂性に影響をおよぼす可能性は低いですが、症状が数時間で軽減しない場合は医師へ連絡することが必要です。
- ② 副作用は服薬後30分以内、本療法開始1ヵ月以内、またスギ花粉飛散季節には特に注意を要します。
- ③ 頻度は低いですが、鼻炎症状、喘息症状、蕁麻疹などがみられることがあり、またアナフィラキシーが生じる可能性が皆無ではありません。